

## 収穫中の隣接園地に、十分に注意を払い防除して下さい。

☆不明の点がありましたら、営農指導員までお問い合わせ下さい。

果樹防除情報については県からの発生予察情報をもとに作成しておりますが、皆様におかれましては防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認して散布されますようお願いいたします。

注意事項 展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。

## 【 も も 】(防除暦 31～32頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当たり)	SS 散布量
特別散布	9/17頃	カイガラムシ類	1. 展着剤 2. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	300ℓ
		1. 収穫終了した園地及び、収穫中の園地にカイガラムシの被害が見られる場合は散布する。 【カイガラムシ越冬対策】 ※ボルドー液との混用は避けてください。		
17・18・19	(収穫後) 9/10頃 及び 9/25頃 及び 10/10頃 の3回	せん孔細菌病	1. 展着剤 2. 4-12式ボルドー液 ①生石灰 (1,200g) ②硫酸銅 (400g) または 1. ICボルドー412 30倍 (3,300g) または 1. 展着剤 2. ムッシュボルドーDF 500倍 (200g) 3. クレフノン 100倍 (1,000g)	300ℓ
		1. 収穫中・収穫前の品種では収穫終了次第散布する。 2. 収穫が終了した園地では8月末頃から散布を開始してもよい。この場合は秋に4回の散布となる。 但し、周辺に収穫中及び収穫前の他作物がある場合は飛散しないよう注意すること。 3. 周辺に収穫中及び収穫前の作物がある場合は、ムッシュボルドーDF 500倍(200g)をクレフノン 100倍(1,000g)加用で使用する。		
特別散布	9月 上旬～下旬 (収穫後)	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤 200倍 (500cc) 枝幹部への散布(手散布)	200ℓ
		1. トラサイドA乳剤は、葉に薬液がかかると葉害が出るので注意する。(収穫中・収穫前の品種では収穫終了次第散布する。) 2. 今回散布できなかった場合は、3月下旬から4月上旬(発芽前)にトラサイドA乳剤200倍(500cc)を枝幹部へ散布する。トラサイドA乳剤の枝幹部への散布は年間1回なので注意する。		

## 【 り ん ご 】(防除暦 57頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当たり)	SS 散布量
14	9/7頃	炭そ病・斑点落葉病 輪紋病・褐斑病・すす点・すす斑病 (キンモンホソガ・シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. オースサイド水和剤 600倍 (165g)	500ℓ
		1. 隣接園に注意して散布する。 2. 褐斑病の発生が見られる場合や発生が懸念される場合は、ユニックス顆粒水和剤2,000倍(50g)も使用する。 ただし、収穫前日数が14日なので注意する。 3. シンクイムシ類、キンモンホソガの発生が多い場合は、ヨーパルフロアブル1万倍(10cc)も使用する。		
15	9/17頃	炭そ病・斑点落葉病 輪紋病・褐斑病・すす点・すす斑病 (カイガラムシ類)	1. 展着剤 2. オースサイド水和剤 600倍 (165g)	500ℓ
		1. オースサイド水和剤はキャブタン剤で年6回までの使用回数になります。キャブタン剤はオースサイド水和剤・オキシラン水和剤・ダイパワー水和剤になるので、年間使用回数にご注意ください。 2. カイガラムシ類の発生が多い場合は、トランスフォームフロアブル2,000倍(50cc)も散布する。		

【りんご落果防止剤の使用法】※昨年に引き続き高温対策としてヒオモン水溶剤を推奨します。

○使用薬剤: ヒオモン水溶剤 2,000倍(50g) 収穫前使用日数21日～4日前までに1回散布。展着剤不要。

○対象品種: シナノスイート・陽光・王林・シナノゴールド(JA共選品種)

○散布時期: 9月20日以降 ※散布の際には隣接園に飛散しないようご注意ください。

●「こうとく」には1,500倍(65g)での使用をお勧めします。(防除暦65頁参照)

## 【赤なし・青なし共通】幸水・豊水・あきづき・二十世紀・南水等 (防除暦 赤なし84頁、青なし92～93頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当たり)	SS 散布量
ナシヒメシンクイムシの被害果は園内に放置せず、水づけや園外持ち出しなど適切に処理すること。				
特別散布	9月上旬～中旬	シンクイムシ類	1. 展着剤 【ナシヒメシンクイ重要防除時期】 2. エクシレルSE 5,000倍 (20cc)	250ℓ
		1. 中生種(豊水)以降の無袋の品種でシンクイムシ類の被害がある園地では散布する。		
特別散布	9月中旬	カイガラムシ類	1. 展着剤 2. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	250ℓ
		1. 収穫終了した園地及び、収穫中の園地にカイガラムシの被害が見られる場合は散布する。 【カイガラムシ越冬対策】		
耕種的防除	9月下旬	ハマキムシ類・ナシヒメシンクイ クワコナカイガラムシ・ハダニ類	【バンド誘引】 枝幹部に麻袋や肥料袋などを厚く巻き付け、2月初め頃に取り外し処理する。	

## 【ぶどう】(防除暦 129頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当たり)	SS 散布量
特別散布	休眠期 (10月下旬頃)	ブドウトラカミキリ	1. トラサイドA乳剤 200倍 (500cc) 枝幹部への散布(手散布)	200ℓ
		1. 晴天時を選んで、丁寧に散布する。 2. りんごの隣接園では葉害が生じ易いので、薬剤がかからないよう十分注意して散布する。		
落葉後		各種病害虫	落葉処理など園内外の清掃 各種病害虫の越冬密度を下げるため、園内外の落葉を集めて適切に処理する。	

【 お う と う 】(防除暦 148頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)	SS 散布量
特別 散布	9月 上旬～下旬	コ      ス      カ      シ      バ	1.トラサイドA乳剤	

【 か き 】(防除暦 158頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)	SS 散布量
8	9月上旬	すす点病・落葉病 炭そ病・うどんこ病	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,500倍 (65g)	400ℓ
		1. すず点病の重要防除時期。 ただし、ベルクート水和剤は年3回:収穫14日前の使用規制があるので注意して使用する。		
落 葉 後 (耕種の防除)		各 種 病 害 虫	落葉の処理など園内外の清掃と土壌の耕うん	—
		1. 落葉病菌の越冬密度を下げるため園内外の落葉を丁寧に集めて適切に処理する。 また、アザミウマ類の越冬密度を下げるため土壌の耕うんを行うと有効である。		

【 す も も 】(防除暦170～171頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
12	9月中旬 (収穫後)	黒 斑 病	1. ICボルドー412	30倍 (3,300g)	300ℓ
		※隣接園に注意して散布する。			
特別 散布	9月 上旬～下旬 (収穫後)	コ ス カ シ バ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
		1. トラサイドA乳剤は、葉に薬液がかかると薬害を生じるので注意する。 (収穫中、収穫前の品種では収穫終了次第散布する。)			
落 葉 後 (耕種の防除)		各 種 病 害 虫	コスカシバの圧殺 園内外の清掃		—
		1. コスカシバの虫糞の出ているところを、金づちか木づちで軽くたたいて圧殺する。 2. 園内外の落葉を集めて適切に処理する。			

【 ネ ク タ リ ン 】(防除暦192頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
15 ・ 16 ・ 17	(収穫後) 9／10頃 及び 9／25頃 及び 10／10頃 の3回	せん孔細菌病	1. ICボルドー412 または 1. 展着剤 2. ムッシュボルドーDF 3. クレフノン	30倍 (3,300g)  500倍 (200g) 100倍 (1,000g)	300ℓ
1. せん孔細菌病の発生が見られた園では、翌年の伝染源となる春型枝病斑の発生を予防する為に実施する。 2. 隣接園に注意して散布すること。					
特別 散布	9月 上旬～下旬 (収穫後)	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
1. 葉にかからないよう注意して散布する。					
落 葉 後 (耕種の防除)		各 種 病 害 虫	コスカシバの圧殺 園内外の清掃	—	
		1. コスカシバの虫糞の出ているところを、金づちか木づちで軽くたたいて圧殺する。 2. 残袋および落葉の処理を徹底する。			

【 う め 】(防除暦179頁参照)

散布 回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)	SS 散布量
落 葉 後		樹 上 の 越 冬 害 虫 ( カ イ ガ ラ ム シ 類 )	1. 機械油乳剤95 25倍 (4ℓ)	350ℓ
		1. 枝幹に寄生しているカイガラムシ類は、ワイヤーブラシなどでこすり落とす。		

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に隣接している園地では十分注意して散布をお願い致します。また、希釈倍数・散布量・散布時期(収穫前日数)にも十分注意してください。

※各品種の出荷前(最終散布終了後)には、必ず防除日誌・栽培管理日誌を提出してください。